

<参考資料>

第2期「北九州市循環型社会形成推進基本計画」の策定について

(第3回審議)

～資料編～

目 次

1 これまでの環境審議会委員の意見

これまでの環境審議会委員の意見

1 家庭系ごみ対策

	委員の意見	事務局の回答
1	<ul style="list-style-type: none"> 家庭ごみの 40～50%を占める生ごみの減量が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、生ごみの水切りやりサイクル（生ごみコンポスト）などの周知・啓発を進めていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査で、30代、40代に比べて20代の実行している割合が低い原因を踏まえて、教育の取組みをやっていく必要があると思うが、どのように分析しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 30、40代の親世代は家庭の中で、特に子供とごみやりサイクルなどの環境問題を話題にすることもあり、自らの行動を意識することも一つの原因かと思われる。一方で、20代は学生や単身世帯が多く、少し関心が薄いのではないかと考えている。 分析を進めて、今後の啓発等に生かしていきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケート調査の「もっと取り組んでほしい施策」の3位に「分別大事典やていたんプレスなどによる啓発、情報提供」がある。これらの情報提供はほとんど自治会を通じて提供されているので、自治会未加入者には情報提供できていない。 特に分別大事典について、最近では配布されていないので、全戸配布していただければと思う。 ていたんプレスも全戸配布してもらえれば、もっと若い人に情報が行き渡ると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 予算の目途がつき次第、分別大事典（簡易版）を作成し、全戸配布する予定である。また、各区役所・出張所、市民センターや環境センターでの分別大事典の配布を引き続き行う。 ていたんプレスは、年3回、市政だよりと共に自治会加入者に全戸配布している。自治会未加入の集合住宅へも不動産協会や宅建協会に依頼して各戸配布している。 市の施設、郵便局、コンビニエンスストア、大学等でも配架しており、希望者には点字版、音声版を郵送している。その他、市のホームページにも掲載しており、多くの方が目にするよう対応していきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 40代前半くらいを境に、そこから上は紙、そこから下は紙での情報はなかなか受け取らない。分別大事典など非常に良いコンテンツはあるが、それが行き渡らないのは、上手な配信ができていないのではないかと思う。 例えば指定袋にQRコードをつけてアプリをダウンロードすることができるような、受け取り側にあったやり方をするだけでも改善すると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> R3年6月納品分から順次指定袋の外袋にQRコードを入れたデザインに変更することとしている。 また、分別大事典や分別アプリの情報が、ていたんプレスやHPなど、様々な方法により入手できるよう引き続き工夫していきたい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトル1つ捨てることでも、子供でもできるのに、なぜ大人になっただけできないのか、20代が実施できていないという数字も出ていたが、一人一人が実行できれば、もっと全体的に影響してくると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、20代も含め全世代の方々が協力していただけるよう効果的な周知・啓発手法等について検討し取り組んでいきたい。

6	<ul style="list-style-type: none"> ・分別大事典やていたんプレスの活用は本当に大事なことと思うので、しっかり PR していただきたい。 ・実際に市民の方へ浸透していないものも多い。 ・北九州市女性団体連絡会議のことも大いに活用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、自治会や北九州市女性団体連絡会議、関係機関等のご協力をいただきながら、市民周知に取り組んでいきたいと考えている。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・市民へのアプローチがこれからの課題になる。ごみステーションを見た時に、ごみ出しマナーのなっていないところがたくさんあると思う。このへんもどのようにアプローチしていくのかということが今後の課題になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全戸配布予定の分別大事典（簡易版）に、「ごみ出しマナーの啓発」をあわせて掲載することとしている。 ・また、ごみ出しマナーに関する出前講演やパトロール、ていたんプレスなどを活用した「ごみ出しマナーの啓発」を引き続き行い、ごみ出しマナーの向上に努めていきたい。

2 事業系ごみ対策

	委員の意見	事務局の回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却される事業系ごみの約 20%がリサイクルできる古紙である。福岡市では、10月から古紙の分別を義務化したとのことであるが、本市の古紙の削減や対策、リサイクルへの誘導など、取り組み状況・考え方について聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市においても、H16 年から事業系古紙や木材の持ち込みを禁止し、リサイクルへの誘導を図っている。 ・様々な機会でご紙リサイクルについて周知を図っているほか、古紙リサイクル事業者と連携し、各古紙業者を「事業系古紙の無料回収拠点」と位置付けて、PR することにより、事業系古紙の回収を促進する仕組みを整備している（H30～）。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な取組をやっているところの事例を参考にすれば（対策が）かなり進むのではないか。例えば、京都市の「しまつのこころ条例」では、事業者を実施義務のある 8 項目を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R1 年 11 月に、ごみの減量に成果を上げている政令都市 5 か所を視察し、ごみ減量の取組を伺った。 ・それぞれに効果が上がっている取組があり、事業所への指導や工場での展開チェックの強化（名古屋市、横浜市）や、食品ロスダイアリー事業（神戸市）、市民に分かりやすいチラシの作成や出前講演への注力（京都市）などの事例を参考に、今年度の事業に盛り込ませていただいたところである。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・展開チェックについて、H30 年度にチェックした 1,825 台のうち、悪質な捨て方をしたのがどのくらいあったのか、また、分かってやっているのか知らないでやっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物等を持ってきているものに対して、警告書発行など注意したのが全体の 3～4%である。その中には、分かって持っている悪質なものもあり、搬入業者だけでなく排出元に対しても指導した事例もある。このような対応を地道に続けていくことで、ごみの減量につなげていきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系は家庭系とは別の何らかの対策が必要であると感じており、具体的には、手数料を値上げするなど、そのあたりも検討していかないといけないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみ対策の一つとして、適正なごみ処理手数料のあり方の検討は必要であると考えており、今回の計画においてもその旨を記載する予定である。

5	<ul style="list-style-type: none"> ・8割くらいは、事業系ごみ袋に何でも入れて良いという回収の仕方をしていているところが多い。事業系でも最低でもプラスチックと一般ごみに分けて回収するなど、今のやり方を止められたらごみ量も減ると思う。 ・事業系のごみ出しの仕組みづくりをもう一度見直していくことが、喫緊の課題になるのではないかと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在でも、リサイクルできる古紙や廃木材、かん・びん・ペットボトルの分別の仕組みについては確立しており、事業系ごみ袋には入れずにリサイクルするよう、事業所への訪問指導や周知徹底を強化していく。 ・プラスチックごみについては、現在国の審議会において、プラスチック資源の分別・リサイクルを促す環境整備などが検討されており、事業系プラのリサイクル促進に向けた仕組みづくりを注視していきたい。 ・また、事業所のプラスチックごみに関するリサイクルの仕組み（受入れ先の充実等）が整えば、改めてPRを行っていききたい。
---	--	--

3 プラスチックごみ対策

委員の意見	事務局の回答	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみの組成調査で、プラスチック類が24%であり、どのようにリサイクルしていくかが、今後重要な課題になってくる。社会的にリサイクルシステム自体が形成されないとできないと思うが、取り組みについて聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、事業系の廃プラスチックは産業廃棄物であるため、工場での展開チェックや事業所訪問等によって適正な排出となるよう指導している。 ・一方で、国において、プラスチック資源の分別・リサイクルを促す環境整備などが検討されており、その動向を注視しつつ歩調を合わせていきたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系のプラスチック製容器包装については、家庭系のようなリサイクルシステムは無い中で、今後どのようにリサイクルしていくのか、教えていただきたい。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック製品の取組みについて今後どのように進めていこうと考えているのか。 ・プラスチック製品の削減で、レストランでのプラスチック製ストローの代替素材への取り換えなどの取組みを市として推奨していく必要があると思うが、見解を聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国のプラスチック資源循環小委員会において、プラ製容器包装とプラスチック製品の一括回収が検討されており、国の検討状況を注視しつつ、プラスチック製品のリサイクルに向けて検討していく。 ・大手外食産業では、様々な方法で使い捨てプラスチック削減に取り組んでいる。 ・市内約800社の大規模事業所を対象とした「廃棄物管理責任者講習会」において、各社にプラスチックごみ削減に向けた取組みをお願いしており、今後も事業者の取組みを後押ししていきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市としては、国の動向（製品プラ一括回収）をできるだけ視野に入れて先取りする方向で、製品プラについても積極的にやっていくことが必要だと思う。北九州市は、うまくやれば、処理先が十分あるだろ 	<ul style="list-style-type: none"> ・容器包装プラと製品プラの一括回収については、国の検討状況を注視しつつ、プラスチック製品のリサイクルに向けて検討していく。 ・国の検討により仕組みが確立され、費用負担等の課題がクリアされれば、全国に先駆けて実施できるよう準備を進めていきたい。

	うと思う。	
5	<ul style="list-style-type: none"> 容器包装と製品プラ（の一括回収）について、この施策に期待したいと思うし、北九州ならではの、先取りした何かが入ってきたら面白いと思う。 	
6	<ul style="list-style-type: none"> 汚れがついたプラスチック製容器包装について、こういうものまでは出して良いという啓発があれば、もっと分別される量が増えると思うので、啓発をよろしく願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、出前講演やていたんプレス等を通じて啓発を徹底していきたい。 これまでも、 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ていたんプレスを通じたプラスチックごみの分別早見表の全戸配布（R2.7） ▶ プラスチック問題に特化した出前講演の強化 ▶ 市政だよりへの特集記事の掲載（R2.10） などを実施している。 環境イベントでのPRやHPでの啓発など、あらゆる機会でも市民周知を図り、リサイクルの意義を含め、プラスチックごみ問題にしっかりと取り組んでいきたい。
7	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックごみの減量化やリサイクルの意義をしっかりと理解してもらい取組が必要と思う。 市のHPで、海洋プラスチック汚染の問題や、地球環境を守る点でも大事ということが触れられているが、そのあたりをもっとアピールしていく必要があると思う。 	

4 食品ロス削減対策

	委員の意見	事務局の回答
1	<ul style="list-style-type: none"> スーパーで食品を買う時、レモンやにんじんなどまとめて袋に入っているのを最小単位として買うしかないが、そうすると余ってしまう。 市がどういうふうに関われるのか分からないが、まとめて買うしかない状況を変えていくと、余計なショッピングも減ると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ばら売り、計り売り、少量パック等による販売を実施している店舗もあるので、そういった取り組みを事業者へ推進していきたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> コンポストについて、例えば卵の殻や魚の骨、ダイコンの葉など、混ぜてはいけないものは分別して取り除かないと、入れられないという不自由さのため、結局ごみになっていく。 全て一緒に肥料にできるようなものがあれば教えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市が開催しているコンポスト講座で紹介しているタカラ式コンポストでは、卵の殻や魚の骨も投入可能となっており、野菜の皮や芯も、細かく切るなどして堆肥化できるものもある。

5 環境教育の推進

	委員の意見	事務局の回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の意識を変えていくのは大切だと思うが、一番のきっかけとしては、教育の力が大きいと思う。将来の大人である子どもたちの教育に力を入れる形で計画策定に取り組んでいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる「市民環境力」の向上を目指すとともに、「幼児教育及び学校教育における環境教育」の考え方を明記し、あらゆる世代を対象に継続して取り組んでいく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州独自の発想として、幼、保、小、中の教育の中に、「SDGs」「リサイクル」「リユース」といった言葉をしっかりと共通の言葉として入れていくのはどうか。 ・2050年に働き盛りになる子どもたちが成人したときのことを考えた計画策定が重要である。環境学習という柱を取り入れていただけたらありがたい。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で「選択」の講義では、興味のある学生は専門的なことを学べる点で意味があるが、それを選択しない学生をどういうふうにするかが課題になる。 ・授業設定やカリキュラムの編成など、検討する余地はあると思う。大学教育も含めて関心のない人をいかに巻き込むか、そのような取り組みが必要になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関心のない人でも楽しく学べ、市民一人ひとりの環境行動を促進するため、環境教育の総合拠点である「環境ミュージアム」の活用や、「エコライフステージ」の実施などの取り組みを進めている。 ・今後も、大学や他の教育機関とも連携して環境教育を進め、市民環境力の向上を目指していく。 ・紙媒体のほか SNS なども活用し、あらゆる機会をとらえて、より一層の啓発を行っていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や小・中学校も、単体ではよくやっていると思うが、校種間の連携ができていないことが問題であると感じる。 ・「成長の過程にあった環境教育を推進」というのはとても良いことだと思うが、これに加えて、幼稚園ではここまで、小学校低学年ではここまでやるといった「系統立った」プログラムを詳細にしていくともっと良くなると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のプログラムについては、学習指導要領を基に、「北九州市スタンダードカリキュラム」を作成し、市内小中学校に配布されている。 ・その中で、例えば小学校4年生の社会科では「ごみの処理（ごみステーションや資源化物のリサイクルに関すること）」が定められており、環境局職員による出前授業（ごみ収集車へのごみの投げ入れ体験など）や、エコタウンセンターや環境ミュージアム等を訪問する「SDGs環境アクティブ・ラーニング」が実施されている。他にも、成長段階（小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年、中学校）にあわせた学習教材の作成・配布を行うことにより、系統立てた指導を行うことができるようになっている。 ・教育委員会では、昨年度、SDGsの視点を踏まえた地域教材「わくわく！北九州」を作成し、小学校3、4年生

		<p>に配布している。また、中学生向けの教材を作成し、今年度末に配布する予定である。児童生徒の発達段階に合わせた教材を配布することにより、環境学習を含む、SDGsの視点を踏まえた学習を小・中学校で継続的に実施できるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境局では、今後も、教育委員会とも連携しながら、環境教育に積極的に関わっていく。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの問題について日本人と留学生との間にフリクションが起こる。 ・分別大事典は外国語もあるが、配布だけでなく、オリエンテーションやワークショップなどを開催し、英語で実際に見せてあげるのが良い。 ・指定袋自体に「plastic」とか「can's and bottle's」など英語で書けば、留学生たちも分かると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生向けのオリエンテーションについては、関係部署と連携し、各学校の要望にあわせて R3 年度から実施予定である。 ・R2 年度から、指定袋にごみの種類を 5ヶ国語で表記している。また、各指定袋に分かりやすいイラストを表示している。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育だけではなく、躰の問題でもあり、JICA の研修では、小学校に行き給食や掃除当番など、小学生がどのように役割分担しているのか、自国との違いを感じてもらっている。 ・躰と環境教育は小学生はやれているが、先ほどの話では、大学生はなかなかできていないということであるが、自覚をもって取り組んでいかないと治らないのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期から環境問題に関わることは非常に大切なことであると考えている。 ・あらゆる世代を対象に、関係機関とも連携し、環境教育の推進を図っていく。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興課と教育委員会が折衝し、小学校の授業に自治会の会長が出ていくといった案を検討していると聞いている。環境局の方でも、自治会への協力をお願いすればできるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への授業や市民センターでの出前授業など、自治会等とも連携し環境問題の啓発を図っていく。